

## 序

遠隔教育は、教育のフォーマルなセクターとインフォーマルなセクターの間にある多様な教育目的や教育実践の橋渡しに最適な教授形態として登場した。ここ10年ほどの間に、教育関係者や政策立案者たちは、新しい教育手段である遠隔教育に多大な関心を寄せるようになった。とくに、アジア・太平洋地域では、遠隔教育機関もしくは遠隔教育プログラムは、急速に発展し、重要な役割を果たしている。しかし、それにも関わらず、その実態が充分知られていないといいたい。

そこで、ユネスコと放送教育開発センターは共同で、「アジア・太平洋地域における遠隔教育」と題するプロジェクトを企画し、遠隔教育の現状を詳細に明らかにしようとした。私たちは、このプロジェクトを始めるにあたって、それぞれの国の遠隔教育の専門家に、その国の遠隔教育の概要の執筆と、遠隔教育機関に対する調査のコーディネイトとを依頼した。種々の理由によって、アジア・太平洋地域のすべての国を調査できたわけではないが、この調査によって、この地域の遠隔教育の包括的な見取り図を描くことができたのではないかとと思われる。各国の概要は、それぞれの国の専門家が執筆したものである。機関に対する調査は、もちろん調査のコーディネイターや調査の回答者の協力があったことだが、私たちが企画編集したものである。それゆえ、プロジェクトの成果は2つとなった。一つは、各国の遠隔教育の発展経緯と現状についての概要である。もう一つは、この地域の遠隔教育機関に対する調査結果である。

まず、機関調査に関しては、各国から寄せられた情報を、組織的に編成し提示することを第一とした。情報量は機関によって様々である。それに対して、プロジェクトのメンバーは、校正をおこない、部分的に最新のデータに更新し、できうるかぎり正確かつ最新の情報を提示することに努めた。しかし、編集過程で内容に誤りが生じたかもしれない。その場合には、深くおわび申しあげる。

次に、各国の概要を編集する方針としては、最小限の形式の統一にとどめた。全体の一貫性を目的とすれば、まちまちな長さを統一しなければならなくなる。しかし、私たちは、執筆者個人の視点を大切に、なるべくそのままの形で残すことにした。また、執筆者が用いた参考文献、引用文献はすべて掲載し、英語以外の言語の場合もここに含めた。国によって参考文献の書き方が異なるため、この”国際的”な参考文献リストは、正確さという点において問題があろう。興味をもたれた読者は、直接、執筆者と連絡を取りあっていただきたい。

この研究は、まだ緒についたばかりであり、私たちは、遠隔教育の実態やその将来の可能性について、さらに多くを学ばなければならない。しかし、ここに収集された情報が、この革新的な学習形態をあまりよく知らない人々に対しての概説書になるだけでなく、行政官、教師、研究者のような遠隔教育の計画立案や意志決定に携わる専門家に対しても、価値あるものであってほしいと願う。このようなかたちで調査をまとめることができたのは、まさに遠隔教育に携わる関係者の御協力の賜物である。調査に協力いただいたこと、知識や経験を共有させていただいたことに心より感謝する。遠隔教育という若く成長途上の領域のパイオニアとして、私たちは伝統的な教育の殻を破り、そこから大きく広がる地点に到達した。遠隔教育の過去と現在について考察してえられたここでの知見をもとに、今後、一層、光明に満ちた将来を切り開くべく努力していきたい。

「アジア・太平洋地域における遠隔教育機関の調査」プロジェクト

主査 王 淑英